

平成27年度(2015)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター一年報

平成29年3月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成27年度
花・野菜技術センター年報
目次

I 総説

1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	6

II 作況

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

III 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部	11
2. 技術普及室	13

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験	14
2. 栽培環境に関する試験	15
3. 病害虫に関する試験	16
4. 技術体系化に関する試験	16
5. 地域支援に関する試験等	16

V 研修事業の概要

1. 概要	18
2. 研修事業の推進	18
3. 北海道花き・野菜技術研修	19
4. 研修ほ場等作付概要	23

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料	24
2. 印刷刊行物	25
3. 普及事項	25

VII その他

1. 職員の研修	27
2. 見学・参観	27
3. 研修生の受け入れ（研修事業以外）	28
4. 委員会活動	29
5. 公開デー2015の実施	29
6. 講師等の派遣	30
7. 各種委員	30

VIII 自己点検への対応 31

I 総 説

1. 沿革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研

修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35' 東経141° 59'

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

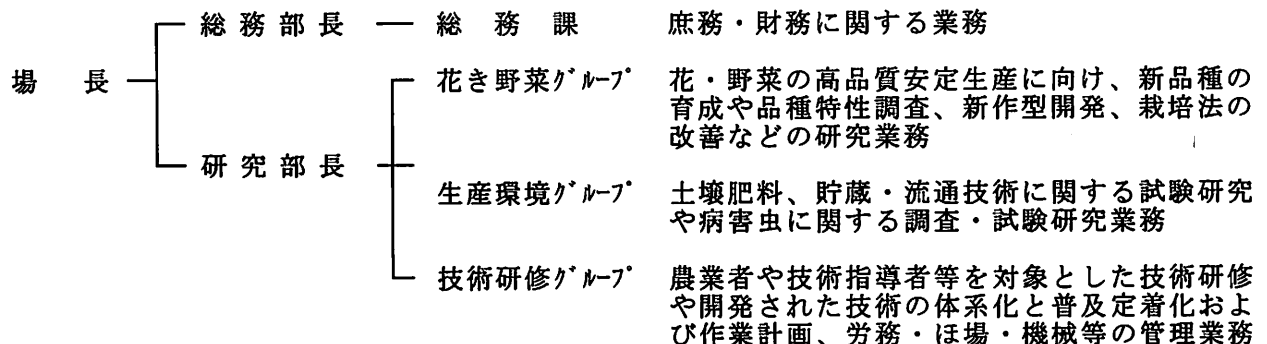
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にパーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

4. 機構（平成28年3月31日現在）



（花・野菜技術センター技術普及室＊）

上席普及指導員 — 主任普及指導員

＊ 北海道農政部生産振興局技術普及課

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

5. 職員

(1) 職員数 (平成28年3月31日現在)

区分	場長	部長	総務課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究(プロパー)		1		7	7	3	18
研究支援(プロパー)			3			5	8
研究支援(道派遣)	1	1	3			2	7
計	1	2	(兼務1外数) 6	(兼務1外数) 7	7	10	33

(2) 現職員名簿 (平成28年3月31日現在)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名	
総務部 総務課	場長	長 沢 基	生産環境G	主査(栽培環境)	後 藤 英 次	
	総務部長	館 山 巖		研究主査	田 丸 浩 幸	
	総務課長(兼)	館 山 巖		研究主査	野 田 智 昭	
	主査(総務)	新 津 康 子		主査(病虫)	佐々木 純	
	主査(調整)	藤 田 賢 司		研究主査	橋 本 直 樹	
	指導主任	岩 橋 広 樹			白 井 佳 代	
	主任	高 松 誠 治		技術研修G	研究主幹	福 川 英 司
		佐 藤 勝 宏			主査(技術研修)	鈴 木 亮 子
		土 田 操			主査(技術研修)	柳 田 大 介
	研究部 花き野菜G	研究部長		安 積 大 治		主査(研修)
研究主幹		鳥 越 昌 隆		主任	高 橋 英 樹	
主査(花き)(兼)		鳥 越 昌 隆		指導主任	及 川 忠	
主任研究員		生 方 雅 男			玉 川 忠	
主査(野菜)		黒 島 学		主任	南 貴 夫	
研究主査		田 縁 勝 洋			寺 口 佳 孝	
研究主任		大 久 保 進 一			梶 山 幸 道	
		木 村 文 彦				
専門研究員		小 田 義 信	(道技術普及室)	上席普及指導員	池 田 信	
生産環境G		研究主幹	角 野 晶 大		主任普及指導員	小 林 孝 夫

(3) 転入・採用

職名	氏名	採用転入年月日	備考
場長	長 沢 基	27. 6. 1	道農政部生産振興局農産振興課
研究部 部長	安 積 大 治	27. 4. 1	農業研究本部道南農業試験場
研究部 研究主幹	鳥 越 昌 隆	27. 4. 1	原子力環境センター
研究部 生産環境G 主査(病虫)	佐々木 純	27. 4. 1	農業研究本部北見農業試験場
研究部 技術研修G 主査(技術)	柳 田 大 介	27. 4. 1	農業研究本部北見農業試験場
研究部 技術研修G 主査(研修)	清 水 政 宏	27. 6. 1	胆振総合振興局産業振興部農務課
研究部 花き野菜G 研究主査	田 縁 勝 洋	27. 4. 1	農業研究本部十勝農業試験場
研究部 技術研修G 主任	高 橋 英 樹	27. 6. 1	留萌振興局産業振興部農務課
(道技術普及室)	池 田 信	27. 4. 1	道農政部生産振興局技術普及課
(道技術普及室)	小 林 孝 夫	27. 4. 1	空知農業改良普及センター北空知支所

(4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
場 長	小 野 悟	27. 6 . 1	道農政部食の安全推進局
研究部 部長	小 長 尾 明 宣	27. 4 . 1	農業研究本部中央農業試験場
研究部 研究主幹	田 中 静 幸	27. 4 . 1	農業研究本部北見農業試験場
研究部 研究主幹	川 岸 康 司	27. 4 . 1	農業研究本部上川農業試験場
総務部 総務課主査 (総務)	白 木 和 美	27. 6 . 1	空知総合振興局産業振興部農務課
研究部 花き野菜G 研究主査	大 宮 知	27. 4 . 1	原子力環境センター
研究部 花き野菜G 研究主任	八 木 亮 治	27. 4 . 1	農業研究本部十勝農業試験場
研究部 技術研修G 主任	熊 谷 美 希	27. 6 . 1	後志総合振興局産業振興部農務課
(道技術普及室)	藤 田 寿 雄	27. 3 . 31	退職
(道技術普及室)	宮 町 良 治	27. 4 . 1	道農政部生産振興局技術普及課

6. 収入支出決算額

(1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
技術普及指導手数料	461,530
農産物売払収入	242,948
不用品売払収入	0
法人財産使用料等	395,080
その他雑収入	0
共同研究費負担金	2,188,000
国庫受託研究収入	4,541,000
道受託研究収入	1,684,320
その他受託研究収入	10,438,000
計	19,950,878

※事業費支弁人件費振替額を含まない

(2) 支出決算額

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	2,200,000	2,052,889	0	147,111
経 常 研 究 費	13,392,000	10,780,920	0	2,611,080
研究開発推進費	750,000	647,137	0	102,863
技術普及指導費	5,946,850	5,945,298	0	1,552
外部資金等確保対策費	506,280	500,167	0	6,113
研究用備品整備費	2,013,120	2,013,120	0	0
維持管理経費	116,363,000	114,469,603	0	1,893,397
運 営 経 費	12,776,000	12,327,676	0	448,324
共 同 研 究 費	2,188,000	2,188,000	0	0
国庫受託研究費	4,325,000	4,324,332	0	668
道受託研究費	1,685,000	1,684,320	0	680
その他受託研究費	9,496,000	9,492,988	0	3,012
計	171,641,250	166,426,450	0	5,214,800

※事業費支弁人件費振替額を除く

7. 建物

(1) 現有（平成28年3月31日現在）

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m ²
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃 -2	〃	29.16

< 続き >

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46 m ²
" 4	"	26.46
" 5	"	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

8. 施設および備品

(1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

(2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
酸素／二酸化炭素分析計	1	(株)北海ケミカル Check Point II	691,200	生産環境G
シーダーマルチャー (あけマルくん)	1	日本プラントシーダー(株) SDM-T35411F	822,420	花き野菜G

Ⅱ 作 況

1. 気象概要

(1) 冬期間の経過

冬期間（11月～3月）の気温は、11月中旬はやや低かったが11月下旬～12月中旬はやや高く、1月上旬、2月上旬は平年並みであったが1月中旬～3月下旬まで概ね高く推移した。降水量は12月上旬に多かったが、全般にやや少なかった。日照時間は、11月、2月中旬が少なかったが、2月上旬、3月下旬は多かった。なお、季節調査は都合により実施しなかった。

(2) 農耕期間の経過

農耕期間（5月から9月）の平均気温は5月上旬はやや高かったが、6月上旬、7月上中旬が著しく低く、8月下旬から9月中旬まで低く推移した。農耕期間の積算気温は2605.9℃で平年の95%であった。

降水量は6月上、7月下旬は多かったが、農耕期間を通じて少なく推移した。農耕期間を通じての積算降水量は556mmで平年の78.5%であった。

本年の農耕期間の気象は、気温はやや低く推移し、降水量は多い旬はあったものの全体敵には少なく推移した。低温で少雨が特徴的であった。

(3) 月別の経過

4月：平均気温は上中旬はやや高く、下旬は高かった。降水量は中旬がやや多く、下旬はやや少なかった。日照時間は上旬はやや多かったが中旬は少なく下旬は多かった。

5月：平均気温は上旬はやや高く中下旬は平年並に推移した。降水量は上旬が多く、中下旬は平年並であった。日照時間は上旬は多く、中旬はやや少なく、下旬は多かった。

6月：上旬の平均気温は平年に比べ上旬、下旬で低かった。降水量は上旬は極めて多かったが中下旬は少なかった。日照時間は上旬が少なく中旬は多く下旬は少なかった。

7月：平均気温は上旬は低く、下旬は高かった。降水量は中旬が少なく、下旬は多かった。日照時間は上中旬は多く、下旬は少なかった。

8月：平均気温は上中旬は平年並で下旬がや

や低かった。降水量は期間を通して多かった。日照時間は平年並みであった。

9月：平均気温は上旬がやや低く、中旬が低く、下旬はやや高かった。降水量は上旬に多く下旬がやや多かった。日照時間は中旬が少なかった。

10月：平均気温は低かった。降水量、日照時間は平年並であった。

2. 野菜類の生育状況

(1) メロン（対象品種：「北かれん」）

4月15日定植の無加温半促成作型で栽培した。定植期の4月中旬から開花期の5月中旬まで平年並からそれ以上で経過したことから初期生育及び着果は順調であった。降水量は6月上旬で平年よりも多かったが、病害の発生はほぼみられなかった。糖度は15.2%、一果重は1.70kgであった。

(2) いちご（対象品種：「けんたろう」）

平成26年8月20日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。9月中旬にやや低かった以外は、8月下旬から10月下旬まで気温は概ね平年並であった。ハウス内融雪期が3月8日と非常に早かったため、「けんたろう」の開花始期は4月9日で平年より10日早かった。4月下旬～5月上旬にかけて気温が高め、日照時間が多めに推移したため、収穫始期は5月11日となり平年より12日早かった。収穫期間中の気温は平年並みで推移し、「けんたろう」の総収量は3328kg/10aの多収、規格内収量も2541kg/10aで平年を大きく上回った。規格内一果重は13.7g、Brixは9.6%でいずれも平年並みであった。

(3) たまねぎ（対象品種：「スーパー北もみじ」）

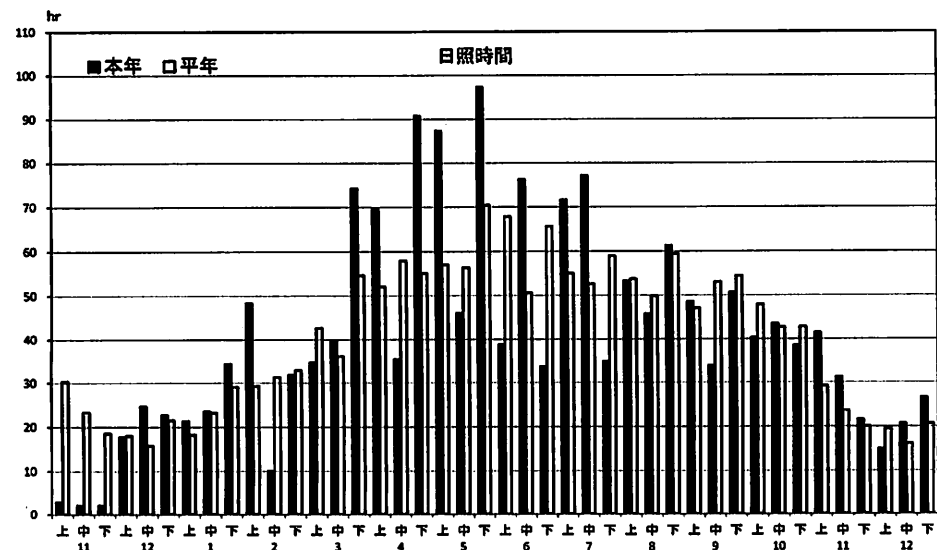
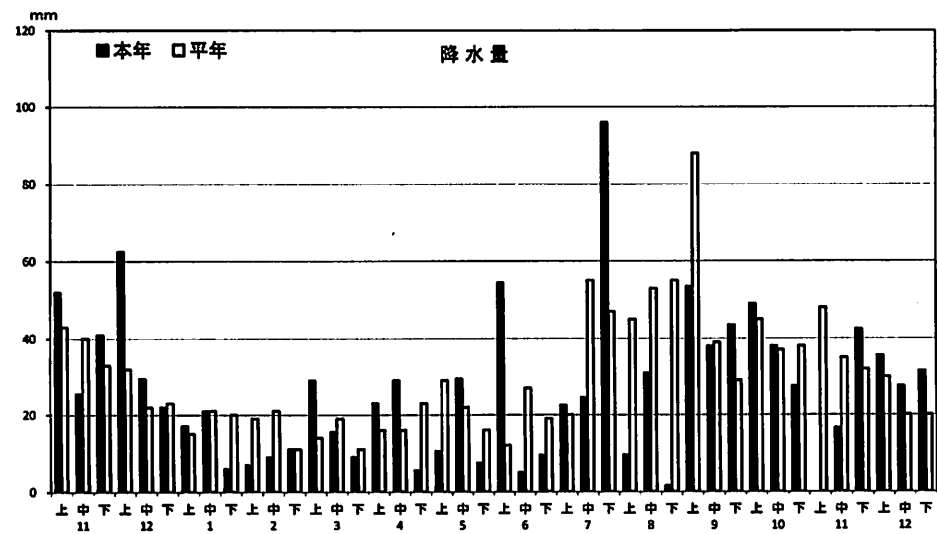
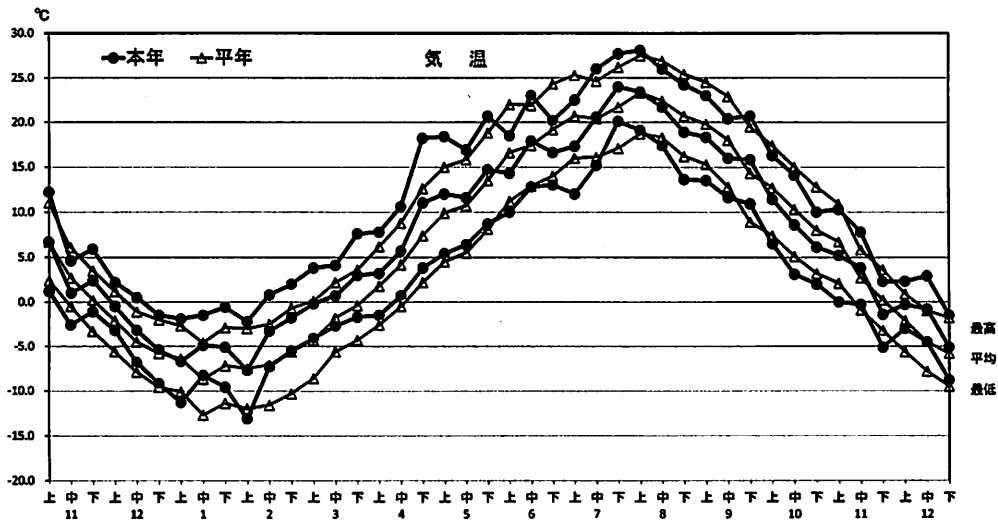
播種期は3月13日、定植期は5月8日の普通作型で栽培した。出芽、苗の生育は順調であった。定植後、気温は平年並みに経過し、移植5日後に17mmの降雨があり活着は良好であった。

6月上旬に54mmの降雨以降7月中旬までは少なく、圃場の乾燥状態が続き、生育は停滞した。7月下旬にまとまった降雨があり、気温も高く経過したことから地上部の生育は回復し、球肥大

は順調に進んだ。

8月中旬以降、圃場の保水性が良かったことから倒伏、枯葉の進みは緩慢であった。

収量に影響する病害虫の発生はほとんど無く、一球重は266g、総収量も822kg/aと多収の年となった。



平成27年度滝川気象図

気象表 (平成26年11月～平成27年12月)

年	月	旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			降水日数 (日)			日照時間 (時間)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
H26	11	上	6.7	6.7	0.0	12.2	11.0	1.2	1.2	2.4	△ 1.2	52	43	9	5	6	△ 1	2.9	30.3	△ 27.4
		中	1.0	2.7	△ 1.7	4.6	6.1	△ 1.5	-2.6	-0.5	△ 2.1	26	40	△ 15	5	7	△ 2	2.1	23.3	△ 21.2
		下	2.4	0.2	2.2	5.9	3.5	2.4	-1.1	-3.3	2.2	41	33	8	8	6	2	2.1	18.5	△ 16.4
	12	上	-0.5	-2.1	1.6	2.2	1.2	1.0	-3.2	-5.6	2.4	63	32	31	7	6	1	17.7	18.0	△ 0.3
		中	-3.2	-4.5	1.3	0.5	-1.1	1.6	-6.8	-7.9	1.1	30	22	8	5	6	△ 1	24.7	15.7	9.0
		下	-5.4	-5.8	0.4	-1.5	-2.0	0.5	-9.2	-9.6	0.4	22	23	△ 1	8	7	1	22.7	21.5	1.2
H27	1	上	-6.7	-6.4	△ 0.3	-1.9	-2.7	0.8	-11.3	-10.1	△ 1.2	17	15	2	5	5	0	21.3	18.2	3.1
		中	-4.9	-8.7	3.8	-1.5	-4.6	3.1	-8.3	-12.7	4.4	21	21	0	4	6	△ 2	23.5	23.2	0.3
		下	-5.1	-7.2	2.1	-0.6	-2.9	2.3	-9.6	-11.4	1.8	6	20	△ 14	2	6	△ 4	34.4	29.1	5.3
	2	上	-7.7	-7.5	△ 0.2	-2.2	-3.0	0.8	-13.1	-12.0	△ 1.1	7	19	△ 12	2	6	△ 4	48.4	29.3	19.1
		中	-3.3	-7.1	3.8	0.8	-2.5	3.3	-7.3	-11.6	4.3	9	21	△ 12	4	6	△ 2	10.1	31.3	△ 21.2
		下	-1.8	-5.6	3.8	2.0	-0.7	2.7	-5.5	-10.3	4.8	11	11	0	5	4	1	31.9	32.9	△ 1.0
3	上	-0.2	-4.3	4.1	3.8	0.1	3.7	-4.1	-8.6	4.5	29	14	15	4	5	△ 1	34.7	42.6	△ 7.9	
	中	0.7	-1.8	2.5	4.1	2.2	1.9	-2.7	-5.6	2.9	16	19	△ 4	5	5	0	39.8	36.1	3.7	
	下	3.0	-0.4	3.4	7.6	3.6	4.0	-1.7	-4.3	2.6	9	11	△ 2	2	4	△ 2	74.2	54.6	19.6	
4	上	3.2	1.8	1.4	7.8	6.2	1.6	-1.5	-2.6	1.1	23	16	7	2	5	△ 3	69.5	52.0	17.5	
	中	5.7	4.2	1.5	10.6	8.8	1.8	0.7	-0.5	1.2	29	16	13	4	3	1	35.4	57.9	△ 22.5	
	下	11.0	7.4	3.6	18.2	12.6	5.6	3.8	2.2	1.6	6	23	△ 18	2	5	△ 3	90.7	55.0	35.7	
5	上	12.0	9.9	2.1	18.4	15.0	3.4	5.4	4.5	0.9	11	29	△ 19	2	5	△ 3	87.3	57.0	30.3	
	中	11.6	10.7	0.9	16.9	15.8	1.1	6.4	5.5	0.9	30	22	8	7	2	5	46.0	56.3	△ 10.3	
	下	14.7	13.5	1.2	20.7	18.8	1.9	8.7	8.1	0.6	8	16	△ 9	3	3	0	97.3	70.4	26.9	
6	上	14.3	16.6	△ 2.3	18.5	22.0	△ 3.5	10.0	11.2	△ 1.2	55	12	43	6	3	3	38.7	67.8	△ 29.1	
	中	17.9	17.4	0.5	23.0	21.9	1.1	12.8	12.9	△ 0.1	5	27	△ 22	3	4	△ 1	76.2	50.6	25.6	
	下	16.6	19.2	△ 2.6	20.2	24.3	△ 4.1	13.0	14.0	△ 1.0	10	19	△ 10	3	2	1	33.7	65.6	△ 31.9	
7	上	17.3	20.7	△ 3.4	22.5	25.3	△ 2.8	12.0	16.0	△ 4.0	23	20	3	3	3	0	71.5	55.0	16.5	
	中	20.6	20.4	0.2	26.0	24.6	1.4	15.2	16.1	△ 0.9	25	55	△ 31	4	3	1	77.1	52.6	24.5	
	下	24.0	21.7	2.3	27.7	26.2	1.5	20.1	17.1	3.0	96	47	49	6	3	3	34.8	58.9	△ 24.1	
8	上	23.4	23.3	0.1	28.1	27.5	0.6	19.1	18.7	0.4	10	45	△ 36	3	3	0	53.3	53.7	△ 0.4	
	中	21.7	22.4	△ 0.7	26.0	26.9	△ 0.9	17.4	18.3	△ 0.9	31	53	△ 22	5	4	1	45.8	49.8	△ 4.0	
	下	18.9	20.7	△ 1.8	24.2	25.4	△ 1.2	13.6	16.2	△ 2.6	2	55	△ 54	2	4	△ 2	61.2	59.4	1.8	
9	上	18.3	19.8	△ 1.5	23.0	24.5	△ 1.5	13.5	15.3	△ 1.8	54	88	△ 35	2	5	△ 3	48.6	47.1	1.5	
	中	16.0	18.0	△ 2.0	20.4	22.9	△ 2.5	11.6	12.8	△ 1.2	38	39	△ 1	6	4	2	33.9	53.0	△ 19.1	
	下	15.8	14.3	1.5	20.7	19.5	1.2	10.9	8.9	2.0	44	29	15	5	4	1	50.6	54.4	△ 3.8	
10	上	11.4	12.7	△ 1.3	16.3	17.4	△ 1.1	6.5	7.4	△ 0.9	49	45	4	8	5	3	40.3	47.9	△ 7.6	
	中	8.6	10.3	△ 1.7	14.1	15.0	△ 0.9	3.1	5.1	△ 2.0	38	37	1	8	6	2	43.5	42.7	0.8	
	下	6.1	8.0	△ 1.9	10.0	12.8	△ 2.8	2.0	3.2	△ 1.2	28	38	△ 11	4	5	△ 1	38.4	42.8	△ 4.4	
11	上	5.2	6.7	△ 1.5	10.3	10.9	△ 0.6	0.0	2.1	△ 2.1	0	48	△ 48	0	6	△ 6	41.4	29.2	12.2	
	中	3.8	2.7	1.1	7.8	5.8	2.0	-0.3	-0.9	0.6	17	35	△ 19	3	6	△ 3	31.2	23.6	7.6	
	下	-1.4	0.2	△ 1.6	2.3	3.6	△ 1.3	-5.1	-3.2	△ 1.9	43	32	11	6	6	0	21.5	20.0	1.5	
12	上	-0.3	-2.1	1.8	2.3	0.9	1.4	-3.0	-5.6	2.6	36	30	6	7	6	1	14.9	19.4	△ 4.5	
	中	-0.8	-4.5	3.7	2.9	-1.0	3.9	-4.5	-7.8	3.3	28	20	8	7	6	1	20.6	16.1	4.5	
	下	-5.1	-5.8	0.7	-1.5	-1.8	0.3	-8.8	-9.5	0.7	32	20	12	8	6	2	26.5	20.6	5.9	
5~9月積算			2805.9	2742.0	△ 136.1	3419.3	3477.1	△ 57.8	1932.0	1997.8	△ 65.8	437	556	△ 120	60	52	8	856.0	851.6	4.4
平年比(%)			95.0			98.3			96.7			78.5			115.4			100.5		

注1 滝川地域気象観測所のANeDAS観測値。

注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。

注3 平年値は前10力年の平均値。

注4. △印は減を示す。

Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。野菜では、いちごの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

①「市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立」では、市場クレームの発生要因解明、前処理および輸送方法の改善に対応する試験を行った。

②「シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」の地域適応性評価」では、愛媛県で育成されたデルフィニウム品種「さくらひめ」についての北海道での適応性を検定した。

③「花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証」では、ダリア、スターチス類の品質管理実態を調査し、前処理、輸送処理方法を検討し、後処理の効果を明らかにした。

④「良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発」では、愛知県、長崎県、花き研究所で育成された品種・系統に関して北海道の適応性を検定するため、本年度は定植した。

⑤「野菜地域適応性検定のうち、いちごでは、「空知35号」を新品種候補としてとりまとめ、「空知36号」を継続検討することとした。たまねぎでは、「北見交65号」を新品種候補として取りまとめ、「北見交68号」を試験中止とした。

⑥「低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立」では、高温期における被覆資材による温度上昇抑制および低温期における保温効果を明らかにした。

⑦「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種を目標に、交配および系統育成の選抜を行った。

⑧「北海道の冬期ハウス環境に対応可能な長期収穫いちご栽培の炭酸ガス施用方法」では、外気と内気循環の組合せによって効率的な運用が可能であることが明らかとなった。引き続き経常研究に

て効果を確認する試験を行うこととなった。

⑨「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発」では、炭酸ガスの施用効果に品種間差があることが明らかとなった。

⑩「加工向けにんじん品種の特性評価」では、加工向けにんじんとしての品種特性を明らかにし、有望な系統を12系統を次年度供試することにした。

⑪「共同育成赤肉メロン品種「北かれん」の高品質生産技術の開発」では、無加温半促成作型における「北かれん」について、マルチの種類や仕立て法などにより果実肥大性や果実外観品質（結果枝）への効果を確認し、成績をとりまとめた。

⑫「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証」では、MA包装資材を用いて、メロンの2～8週間貯蔵における問題点を明らかにした。

⑬「種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立 1. 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立」では、種子イチゴ「よつぼし」に関する北海道における花成反応を明らかにし、低温期に育苗、定植し、その後の栽培期間が高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を検討した。

⑭「ニンニク在来系統の特性評価試験」では、ウイルスフリー化した6系統をガラス温室内で養成し、肥大性の調査実施後、一般圃場に定植した。

⑮「農業資材試験」では、サヤインゲンおよびたまねぎに対する除草剤5点について成績をとりまとめた。

(2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

栽培環境に関する試験

①「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度移出体系」では、夏品および秋品の道産ブロッコリーに関して、場内での蔵置試験とのべ6回の輸送実証試験を実施し、MA包装資材によ

る包装と現状の水詰め発泡スチロール箱包装とで鮮度保持状況を比較検討した。

②「春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発」では、結球レタスおよび非結球レタスの窒素吸収特性を解析するとともに、分施および緩効性肥料使用が収量・品質等に及ぼす影響を検討した。

③「さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価」では、蒸切干用4品種、ペースト用5品種を栽培して収量性などを調査するとともに、道南農試サンプルも含めて加工適正を評価した。

④「低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立」では、栽培養液中の無機成分の推移をモニタリングし、pHや塩基類の蓄積等を確認するとともに、地上部の生育に及ぼす影響を検討した。

⑤「露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果」では、溶出特性が異なる被覆窒素肥料を、全量基肥作条施用および全層基肥全層施用してねぎを栽培し、生育や収量を調査することにより、分施を伴う慣行の施肥と比較検討した。3年間の成果から、セラコートR50とR70を用いて分施窒素相当量の全量を全層または作条で基肥として施肥することで、露地春まきねぎにおいて窒素分施を省略できることを明らかにし、「露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果」としてとりまとめ、指導参考事項となった。

⑥「北海道におけるサツマイモの乾物生産特性に基づく肥効調節型肥料の利用法の確立」では、3段階に溶出特性が異なる被覆窒素肥料を用いてさつまいもを栽培することにより、その窒素吸収特性や収量に及ぼす影響を検討した。

⑦「次世代型鮮度保持コンテナの開発ー蔵置鮮度評価試験ー」では、散水式クーラーをビルトインした試作コンテナ内にキャベツ、ブロッコリー、トマトを4週間蔵置して、環境変化や品質変化を調査し、従来のリーファーコンテナとの比較により、鮮度保持機能を評価した。

⑧「生理障害診断試験」では5件の診断依頼に対応した。

⑨「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、2地区5点の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対

策を示した。

病害虫に関する試験

①「農作物病害虫診断試験」では、68件の診断依頼に対応した。

②「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、検定系統2系統について疫病、萎黄病、萎凋病の特性検定を実施し、「空知35号」が成績会議で優良品種と認定された。

③「ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立」では、斑点病、葉かび病、すすかび病の主要産地での発生および被害実態、発生要因、作型や品種別の発生推移、各病害に対する薬剤の効果などを調査した。

④「たまねぎ突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立」では、灰色腐敗病菌に関して、前年度に接種時期や根切り・収穫時期と発病の関係および防除適期や回数などを処理した各処理サンプルの貯蔵後の発病調査を実施した。これまでの成果から「たまねぎの灰色腐敗病に対する多発回避のための効率的防除対策」としてとりまとめ、指導参考事項となった。

⑤「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病、予察灯によるヨトウガ等について、時期ごとの発生量などを調査した。

⑥「農業資材試験」では、殺菌剤28点についてその効果を調査した。また、複数事例等で有効性が認められた8点の資材が指導参考事項となった。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

革新的技術導入による地域支援

①「ビルナム「スノーボール」抑制開花の品質向上と台つけ仕立ての実証」では、スノーボールの切り枝抑制開花枝の開花品質および日持ち性向上を図るため、開花管理技術および品質保持技術の実証、台つけ仕立ての永続性の実証を行った。本年度、抑制開花に取り組んだ生産者は3戸で昨年より2戸減少したが、むしろ出荷本数・販売金額は増加し、生産規模は拡大した。抑制開花作業場所の環境を調査したところ、6月に30℃近くになる日が続いたものの、概ね15～20℃の間で推移していた。雪室において貯蔵中の生け水は抗菌剤のみあ

るいは乾式でも問題なく、品質保持剤コストが低減できると考えられた。多くの生産者が枝の整理や株の更新に取り組み、計画的な切り枝生産が可能な樹形への改善が見られた。

2. 技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか研究部からの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による農大稲作経営コース集中講義の支援を行った。

4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、生産者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験

(1) 市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立 (213251)

試験期間：平成25～27年

担当 G：花き野菜G

目的：ダリアの市場クレームに対応する前処理技術および市場出荷方法の改善技術を確立する。

(2) シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」の地域適応性評価 (723261)

試験期間：平成26～27年

担当 G：花き野菜G

目的：道内のデルフィニウム産地が栽培を希望している愛媛県育成シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」導入のため、北海道の夏秋期出荷作型における地域適応性を既存品種と比較検討し、栽培マニュアル作成を作成する。

(3) 花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証 (723263)

試験期間：平成26年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道の主要な切り花品目について、これまで開発されてきた品質保持技術の改善と実証を行う。

(4) 良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発 (623260)

試験期間：平成26～28年

担当 G：花き野菜G

目的：従来品種より観賞期間が長く、安定生産の阻害要因となる萎凋細菌病抵抗性を有し、暖地および寒冷地の産地に適応するカーネーション品種を育成するため、選抜系統の寒冷地作型における特性評価を行う。

(5) 野菜地域適応性検定（いちご、たまねぎ） (213300)

試験期間：昭和63年～

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試、十勝農試、北見農試

目的：育成系統の各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

(6) 低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立 (213461)

試験期間：平成26～27年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：トマト短期どり栽培を通じて湛液型養液栽培システムの基本的特性を明らかにするとともに長期どりおよび大規模栽培技術開発に向けた基礎的データを収集する。

(7) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成25～29年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種（現行基準収量：2t/10a→目標収量：2.5t/10a）を育成する。

(8) 長期収穫いちご栽培に向けた炭酸ガス施用効果と地中熱等を活用した局所空調の効果 (723461)

試験期間：平成27～28年

担当 G：花き野菜

目的：北海道における植物工場において高収量を目指すための、局所空調、炭酸ガス施用効果を検討する。

(9) 施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発 (627351)

試験期間：平成25～27年

担当 G：花き野菜

目的：寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱ヒートポンプシステムの開発および評価を行う。

(10) 加工向けにんじん品種の特性評価 (333371)

試験期間：平成27～28年

担当 G：花き野菜G、技術研修G

目的：北海道の加工向けにんじん品種を

選定する。

(11) 共同育成赤肉メロン品種「北かれん」の高品質生産技術の開発 (513362)

試験期間：平成26～27年

担当 G：花き野菜G

目的：無加温半促成作型（低温期、4月中～下旬定植）における「北かれん」について、果実肥大性や果実外観品質（結果枝）を向上させる栽培技術を開発する。

(12) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果について、道産プロッコリーの道外移出および道産赤肉メロンの輸出および12月に出荷するための一方法として明らかにする。

(13) 種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立 1. 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立・(7)北海道における花成反応の解明と活用 (623351)

試験期間：平成25～27年

担当 G：花き野菜G

目的：機関連携試験による「系統23」の基礎的花成特性解明のため、北海道における花成反応を明らかにするとともに、低温期に育苗、定植し、その後の栽培期間が高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を確立する。

(14) ニンニク在来系統の特性評価試験 (723372)

試験期間：平成27年～30年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道で収集された複数のニンニク在来系統に関する農業特性を評価し、情報を得ることで道内産のニンニク安定生産への資とする。

(15) 農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和40年～

担当 G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

2. 栽培環境に関する試験

(1) 春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発 (325361)

試験期間：平成26～28年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：品質の優れた春夏まき道産レタスを生産するため、レタスの窒素吸収特性に基づき、窒素施肥法の見直しを図る。また、レタスの食味評価法を開発し、それを指標に適品種を選定する。

(2) 低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立 (213461)

試験期間：平成26～27年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：低コストで製作できる湛液型養液栽培システムにおける短期どり栽培でのトマト栽培を通して、湛液型養液栽培システムの基本的特性を明らかにする。

(3) 露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果 (725351)

試験期間：平成25～27年

担当 G：生産環境G

目的：露地春まきねぎ省力安定生産のため、被覆窒素肥料の施用効果を検討し、分施を省略した全量基肥栽培を可能とする銘柄を選定する。

(4) 北海道におけるサツマイモの乾物生産特性に基づく肥効調節型肥料の利用法の確立 (725361)

試験期間：平成26～27年

担当 G：生産環境G

目的：北海道で栽培されるさつまいもの乾物生産特性に基づいた肥効調節型肥料を選定する。

(5) さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価 (333341)

試験期間：平成27～29年

担当 G：生産環境G

目的：北海道におけるさつまいも栽培に適した苗質、育苗技術を開発するとともに、蒸し切干やペースト等の加工適性を評価し、品種選定を行う。

(6) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材や前処理技術を組み合わせた蔵置・輸送試験を行うことにより、ブロッコリーの道外移出における氷詰め発泡スチロールに代替可能な輸送技術や赤肉メロンの船便輸送や12月出荷を目指した貯蔵技術等を開発する。

(7) 次世代型鮮度保持コンテナの開発－蔵置鮮度評価試験－ (515361)

試験期間：平成27年

担当 G：生産環境G

目的：新たに開発した鮮度保持コンテナにおいて青果物（キャベツ、ブロッコリー、トマト）の蔵置試験を行い、その鮮度保持効果を明らかにする。

(8) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)

試験期間：平成8年～

担当 G：生産環境G

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて現場に診断を依頼される農産物の生理障害による異常障害などを迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を策定する。

(9) 農業農村整備事業等に係る土壌調査(455900)

試験期間：昭和40年～

担当 G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：土地改良計画地域の土壌調査を実

施する。

3. 病害虫に関する試験

(1) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験 (216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(2) ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立 (326362)

試験期間：平成26～28年

担当 G：生産環境G

目的：道内におけるミニトマトの安定生産を支えるために、主要病害の発生・被害実態を明らかにし、これらに対する効率的な総合防除対策を確立する。

(3) 病害虫発生予察調査 (426500)

試験期間：昭和16年～

担当 G：生産環境G

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。現場ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

(4) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産環境G

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

5. 地域支援に関する試験等

(1) ビブルナム「スノーボール」抑制開花の品質向上と台つけ仕立ての実証 (319900)

試験期間：平成26～27年

担当 G：技術研修G、花き野菜G

目的：スノーボールの切り枝抑制開花枝の開花品質および日持ち性向上を図るため、開花管理技術および品質保持技術を実証する。また、台つけ仕立ての永続性の実証を行う。

V 研修事業の概要

1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種見学説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明の経過

- 1) 5月12日
平成27年度北海道高等学校長協会農業部会総会
- 2) 10月24日
新・農業人フェア2015（札幌会場）
- 3) 1月25日
新規参入予定者（ベーシックセミナー）
- 4) 2月18日
平成27年度地域農業技術センター連絡会議研究交流会
- 5) 3月4日
市町村説明（安平町、厚真町、むかわ町等）
- 6) 3月17日
大野農業高等学校
- 7) 3月28日
市町村説明（豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市等）

(2) 事業課との打合せ

- 1) 8月17日
相手方 北海道農政部農業経営課
内容 研修事業の概要説明、意見交換
- 2) 3月11日
相手方 北海道農政部農業経営課、農業研究本部
内容 平成27年度研修事業結果と平成28年

度研修事業予定の説明、意見交換

(3) 専門委員会開催内容

1) 研修事業運営委員会の構成

（平成27年6月現在）

委員長：福川英司（技術研修G研究主幹）

副委員長：鈴木亮子・柳田大介（技術研修G）

委員：新津康子・藤田賢司（総務課）、

鳥越昌隆・黒島学（花き野菜G）、

後藤英次・佐々木純（生産環境G）

オブザーバー：池田信（上席普及指導員 技術普及室）、小林孝夫（主任普及指導員 技術普及室）

事務局：清水政宏・高橋英樹（技術研修G）

2) 開催内容

① 第1回委員会（12月14日）

ア) 協議事項

・花・野菜新技術セミナー2016について

・平成27年度花・野菜ベーシックセミナーについて

イ) 報告事項

・平成28年度研修事業（案）について

・平成27年度総合技術研修アンケート結果

② 第2回委員会（1月27日）

ア) 協議事項

・花・野菜新技術セミナー2016について

イ) 報告事項

・平成28年度総合技術研修受講者について

③ 第3回委員会（3月16日）

ア) 協議事項

・平成28年度総合技術研修カリキュラムについて

・平成28年度研修事業計画について

イ) 報告事項

・平成27年度研修事業実績について

・平成28年度総合技術研修受講者について

3 北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	4名
土壌肥料コース	2名
病害虫コース	1名
土壌肥料及び病害虫コース	1名
合 計	8名

2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
古谷徳紀	長沼町	4/20～6/12	いちごの栽培管理
金子智志	ホクレン	5/18～7/10	土壌診断及び病害虫防除技術
米田光弘	ホクレン 肥料(株)	5/18～5/29	野菜栽培管理
植村拓也	ホクレン 肥料(株)	5/18～5/29	野菜栽培管理
宮本豊誠	ホクレン	6/1～9/12	野菜栽培管理
横谷亮太	ホクレン	6/22～7/10	病害虫防除技術
丸野菜絵	拓殖短大	11/12～11/13	いちごの作物体分析
佐藤 菜	拓殖短大	11/12～11/13	いちごの作物体分析

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

1) 期間

4月8日～10月8日 (6ヶ月間)

2) 受講者数

花きコース 3名

野菜コース 6名

3) 総合技術研修の受講者

氏 名	所属等	備 考
溝部 則子	神奈川県	花きコース
佐々木 拓夢	北広島市	花きコース

岩本 友美	北広島市	花きコース
青山 侑太	石狩市	野菜コース
加藤 寛樹	滝川市	野菜コース
服部 大暉	士幌町	野菜コース
濱田 憲一	大阪府	野菜コース
須田 侑希	上士幌町	野菜コース
加納 寛也	当麻町	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時 間
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌肥料(後藤主査(生産環境G)) ・病害虫防除(角野研究主幹、佐々木主査、白井研究主査(生産環境G)) ・施設資材利用等(外部講師) ・主要花き栽培技術等(生方主任研究員(花き野菜G)、小林主任普及指導員(技術普及室)、鈴木主査(技術研修G)) ・主要野菜栽培技術等(黒島主査、大久保研究主任、木村研究主任、小田専門研究員(花き野菜G)、野田研究主査(生産環境G)、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査(技術研修G)) ・雑草防除の基礎(岸田職員) ・土壌の生成及び土壌改良(野田研究主査(生産環境G)) ・花きの出荷調整と品質保持(鈴木主査(技術研修G)) ・花きの流通と市場システム(小林主任普及指導員(技術普及室)) ・野菜の流通と野菜システム(池田上席普及指導員(技術普及室)) ・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G)) ・経営管理(外部講師) ・クリーン農業(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・その他(安積研究部長、池田上席普及指導員(技術普及室)) 	花き 67時間 野菜 73時間

演習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要花き栽培等(鈴木主査(技術研修G)) ・主要野菜栽培等(黒島主査、大久保研究主任、木村研究主任、小田専門研究員(花き野菜G)、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査(技術研修G)) ・土壌診断等(野田研究主査(生産環境G)) ・病害虫防除技術(角野研究主幹、佐々木主査(生産環境G)) ・園芸資材の実験(外部講師) ・ハウス組立(柳田主査、梶山主任ほか(技術研修G))・作業機械操作実習(柳田主査、梶山主任ほか(技術研修G)) 	花き 91時間 野菜127時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要花きの栽培管理(花き10品目(講師は講義・実習と同じ)) ・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ)) 	花き 508時間 野菜 489時間
視察	卸売市場、先進農家等	花き 35時間 野菜 30時間
その他	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	花き 167時間 野菜 149時間
合計		花き 868時間 野菜 868時間

	き野菜G)、小林主任普及指導員(技術普及室)、鈴木主査(技術研修G) 野菜:黒島主査、田縁研究主査、大久保研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査(技術研修G) 後藤主査(生産環境G) 佐々木主査(生産環境G) 外部講師
野菜 10時間	
土壌改良と施肥管理	2時間
病害虫	2時間
園芸施設資材の特性と利用技術	2時間
花きの輸送と鮮度保持	花き 2時間
野菜の流通と内部品質	野菜 2時間
農地制度の基礎	2時間
経営管理概論	3時間
新規就農者の経営事例	2時間
総合討論	2時間
花・野菜技術センターの概要、技術開発と普及	1時間
計	花き野菜 各30時間

(3) 基礎技術研修(ベーシックセミナー)

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

1) 期間

1月25日～1月29日(5日間)

2) 受講者数

花きコース 3名

野菜コース 29名

3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 2時間 野菜 2時間	花き:鈴木主査(技術研修G) 野菜:黒島主査(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	花き 10時間	花き:鳥越研究主幹(花

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

◇日時 平成27年6月26日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

◇受講者数 27名

2) メロンセミナー2015

道内におけるメロンの安定生産と販路拡大に資するため、メロンの現状と課題及び新品種「空知交23号」の紹介等の最新の話題等について、情報及び意見交換を行った。

◇日 時 平成27年9月2日

◇場 所 道庁赤れんが庁舎

◇内 容

・講 演

- ①「北海道メロンに期待する！！」～大阪市場からのメッセージ～

講師：大阪中央青果株式会社

専務取締役 中川勝弘氏

- ②「北海道メロンのアジア輸出、マーケットとしての可能性」

講師：北陽貿易株式会社

取締役業務部長 管陽一氏

- ③「北海道のメロン栽培実態と研究」

講師：花・野菜技術センター

主査(野菜) 黒島学

・総合討論

話題提供「「空知交23号」開発秘話」

講師：十勝農業試験場

研究主任 八木亮治

◇受講者数 66名

3) いちごセミナー2015

道内におけるいちごの安定供給を図り産地の形成と安定生産に資するため、夏秋どり作型について、新規参入者を受け入れながら生産拡大を図っている産地の状況など、その現状と課題について情報及び意見交換を行った。

◇日 時 平成27年11月18～19日

◇場 所 浦河町総合文化会館

いちご栽培ほ場および共同選果場

◇内 容

・講 演

- ①国内暖地および韓国・中国における夏秋いちご生産の動向

講師：エモテント・アグリ株式会社

取締役研究所長 伏原肇氏

②「すずあかね」の特性と普及状況

講師：ホクサン株式会社 植物バイオセンター 種苗課 高橋太郎氏

- ③日高東部地域における夏秋どりいちご栽培の取り組みについて

講師：ひだか東農業協同組合

営農生産課課長 川越太郎氏

- ④浦河町における「夏いちご」での新規就農者の受入支援について

講師：浦河町農林課農産係

係長 室谷洋介氏

- ⑤岩見沢市における夏秋どりいちご生産の現状と課題

講師：空知農業改良普及センター

専門普及指導員 石川美貴氏

- ⑥伊達市における夏秋どりいちご栽培の取り組みについて

講師：J A伊達市 いちご部会

部会長 鈴木博之氏

・情報提供

夏秋どり作型向け新品種「ペチカほのか」の特性

講師：株式会社ホープ 生産事業部

係長 竹内憲一氏

・栽培ほ場及び共同選果施設視察

◇受講者数 190名

4) 花・野菜新技術セミナー2016

平成27年度に新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術などの研究成果を農業関係者などに対し発表し、速やかな普及定着を図るため開催した。

◇日 時 平成28年2月23日

◇場 所 たきかわ文化センター

◇内 容

・新技術伝達

- ①よくとれる！大きいいちご「空知35号」

講師：花・野菜技術センター

研究主任 木村文彦

- ②低温期に定植する「北かれん」は、マルチと着果節位で品質アップ

講師：花・野菜技術センター

主査(野菜) 黒島学

③きれいに届けます！切り花ダリアの出荷技術

講師：花・野菜技術センター

主査(技術研修) 鈴木亮子

④加工適性に優れた長球たまねぎ「北見交65号」

講師：花・野菜技術センター

主査(技術研修) 柳田大介

⑤肥料ロスを防ぎ低コスト多収！たまねぎの窒素施肥法

講師：花・野菜技術センター

主査(技術研修) 柳田大介

⑥平成28年に特に注意を要する病害虫

講師：花・野菜技術センター

主査(病虫) 佐々木純

・農業改良普及センターからの調査研究事例の紹介

①「たまねぎ生産性の回復を目指して」

講師：空知農業改良普及センター本所

専門普及指導員 菊地紀代美氏

◇受講者 64名

(5) 市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

1) 市民園芸セミナー

◇日時 平成27年5月12日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

・講義「上手な野菜づくり」

講師：北海道農政部技術普及課

上席普及指導員 池田信

◇参加者数 17名

2) フラワーデザインセミナー

◇日時 平成27年8月4日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

・フラワーアレンジメント教室

講師：池坊光明流清美会

宮西祥香、金山祥明氏

◇参加者数 29名

(6) その他の研修

1) 自治体職員教育交流研修員受入

(滝川市国際交流事業)

◇日時 平成27年7月28日～7月29日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 野菜栽培概論、病害虫、土壌肥料

◇参加者数 4名(モンゴル国)

2) 農業大学校(稲作経営専攻コース)研修生受入

◇日時 平成27年8月25日～8月28日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 花・野菜技術センターの概要等

◇参加者数 8名

3) インターンシップ「試験研究体験ゼミナール」

◇日時 平成27年8月24日～8月28日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 研究補助、作業体験等

◇参加者数 1名(北海道大学学生)

4) JICA研修員受入事業(滝川市国際交流事業)

◇日時 平成27年9月7日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 花・野菜技術センターの概要、試験研究と普及事業との連携等

◇参加者数 8名(モザンビーク共和国)

4 研修ほ場等作付概要

区分	品 目	品 種	作 型
花き	デルフィニウム	シネンシス系(スーパーグランブルー、スーパーブラチナブルー、スーパーハッピーピンク)、エラータム系(トリトンライトブルー)	6月定植、8月切り
	カーネーション	ライトピンクバーバラ、10s p-16	4月定植8月切り
	シネンシス系スターチス	マルチーズ、キノブラン、クールダイヤモンド、カナリーダイヤモンドほか	5月定植9月切り
	トルコギキョウ	レイナホワイト、コレゾライトピンクほか	5月定植8月切り
	小輪系ゆり	きたきらり、ピカリ他	6月植え無加温夏秋切り(冷凍球利用)
	ダリア	彩雪、黒蝶、熱唱	4月定植6~9月切り
	ミニシクラメン	ジャイブ混合、ベラノ混合	2月播種10月切り
	花壇苗	ベチュニア、ペゴニア、サルビアほか	6月定植
野菜	トマト	桃太郎8、キャロル10	半促成
		桃太郎8、麗夏、シンディースイート、キャロル10	ハウス雨よけ夏秋どり
	かぼちゃ	えびす、くりゆたか、黒皮味マロン、雪化粧、T C2A(ほっとけ栗たん)	露地ポリ鉢育苗・セル育苗
	レタス	スパーク、シルル	春夏まき
	スイートコーン	ゴールドラッシュ、味来390、ピュアホワイト	春夏まき
	たまねぎ	北もみじ2000、オホーツク222	春まき(移植)
	キャベツ	アーリーボール、楽園	晩春まき
	ほうれんそう	サイクロン、ブライトン	雨よけ春夏まき
		サイクロン、ネオサイクロン、ブライトン	雨よけ夏まき
	だいこん	貴宮、夏つかさ	春まき、初夏まき
	メロン	ルピアレッド、G08、北かれん、FG14、ティアラ	無加温半促成
		空知交23号	露地トンネル早熟
	いちご	すずあかね、ほほえみ家族	夏秋どり(高設栽培)
	ピーマン	さらら、ピクシー	半促成
	ブロッコリー	ピクセル、緑嶺、おはよう	春夏まき
	ねぎ	北の匠、元蔵、夏山一本太	春まき夏秋どり
アスパラガス	ゼンユウガリバー、ガインリム、スーパーウエルカム	露地	
	ウエルカム、ガインリム	ハウス立茎春夏どり	

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料

(1) 研究報告

○黒島学. 夏秋ギク型輪ギク「精の一世」の再電照処理が花序形態および上位葉長に及ぼす影響. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 99:89-95 (2015).

○栢森美如・岡田貴・小坂善仁・佐々木純. *Monilinia fructicola*によるアロニア灰星病(新称). 北日本病害虫研究会報. 66:88-91(2015).

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・田中静幸. メロン新品種「空知交23号」. 北農. 82:52(2015).

(2) 口頭発表

○黒島学. シネンシス系デルフィニウムの切り花品質に及ぼす育苗中の短日および夜冷処理の影響. 園芸学研究. 15(別1):221(2016).

○大久保進一・後藤英次. 湛液型簡易養液栽培によるリーフレタス栽培の可能性. 北海道園芸研究談話会報. 49:34-35(2016).

○大久保進一. トマト湛液型簡易養液栽培におけるベッド被覆資材および冷却水循環の効果. 北海道園芸研究談話会報. 49:62-63(2016).

○木村文彦. 「よつぼし」による夏秋どり作型研究の現状と可能性. 「種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立」研究成果発表会. (2015. 12. 14).

○野田智昭・吉田慎一・岸田力哉・小宮山誠一・後藤英次. MA包装フィルムを用いた輸送中の温度がプロッコリーの品質に与える影響. 園芸学研究. 15(別冊1):459(2016).

○八木亮治・野田智昭・後藤英次・林哲央・福川英司. 北海道のカボチャにおける7月播種による1月出荷の可能性と実用化に向けた課題. 北海道園芸研究談話会報. 49:26-27(2016).

○佐々木純・野津あゆみ・白井佳代・栢森美如. 北海道におけるタマネギべと病に対する薬剤防除の検討. 北日本病害虫研究会. (2016. 2. 25).

○湯川淳一・キムワンギユウ・興那嶺要・喜久村智子・上地奈美・徳田誠・岩崎暁生・橋本直樹・

角野晶大. 旧北区各地ではほぼ同時に発見された新害虫トマトウロコタマバエの続報. 日本応用動物昆虫学会大会. (2016. 3. 26).

○鈴木亮子. シネンシス系スターチスのガク落ち発生要因について. 北海道花き懇話会冬季シンポジウム. (2015. 12. 8)

○柳田大介・直井美幸. タマネギF1品種の球肥大に関する一考察. 北海道園芸研究談話会報. 49:58-59(2016).

○杉山裕・池谷美奈子・柳田大介・佐々木純. タマネギ乾腐病抵抗性圃場検定法の改良. 北海道園芸研究談話会報. 49:56-57(2016).

(3) 著書・資料

○生方雅男. 「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発」研究成果ダイジェスト. (2015).

○生方雅男. 農林水産省委託プロジェクト 地中熱ヒートポンプ利用の手引き. (2015).

○鈴木亮子(共同編集). 北海道フラワーガイド(その24). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2016).

○柳田大介(共同編集). 北海道野菜地図(その39). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2016).

○池田信(共同編集). 北海道野菜地図(その39). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2016).

○小林孝夫(共同編集). 北海道フラワーガイド(その24). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2016).

(4) 専門雑誌・記事等

○安積大治. 衛星リモートセンシングの利用. ニューカントリー 2015年秋臨時増刊号. 148-153(2015).

○鳥越昌隆. 農学校1年1組 トマトの時間 品種特性と栽培の歴史. ニューカントリー. 63(2):36-37(2016).

○黒島学. 花・野菜技術センター課題解決研修

「メロンセミナー 2015」, 農家の友, 67(12):49-51(2015).

○大久保進一, 農学校1年1組 トマトの時間 種類と品種, ニューカントリー, 63(3):54-55(2016).

○木村文彦, いちごセミナー 2015, 農家の友, 68(2):44-46(2016).

○木村文彦, いちご新品種「空知35号」, 北農, 83:169(2016).

○小田義信, 技術特集 理想の苗づくり キャベツ, ニューカントリー, 63(1):71-72(2016).

○角野晶大, スイカ炭疽病の防除対策, ニューカントリー, 63(2):56-57(2016).

○佐々木純, たまねぎのべと病に対する防除対策, ニューカントリー, 63(1):94-95(2016).

○野津あゆみ・荻野瑠衣・佐々木純・角野晶大・岩崎暁生・尾崎政春・成松靖・松井梨絵・上原智子・田中千華・鐘ヶ江良彦・大谷徹・鈴木健, 採苗施設と水田転換畑を利用した新しいイチゴ苗生産方式における病害虫管理の有効性, 北農, 82:392-398(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(4):66(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(5):67(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(6):65(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(7):61(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(8):78(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(9):75(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(10):70(2015).

○鈴木亮子, 今月の作業 切り花, ニューカントリー, 62(11):72(2015).

○柳田大介, 技術特集 理想の苗づくり 企画3 たまねぎ, ニューカントリー, 62(11):68(2015).

○柳田大介, 北海道におけるタマネギ高畦移植栽培の効果, 土づくりとエコ農業, 27(5):7-12(2015).

○池田信, 特集/普及指導員資格試験対策情報/

北海道における普及指導員資格試験対策の取組, 技術と普及, 52(4):45-47(2015).

○小林孝夫, 特集/27年技術総括(花き), 農家の友, 67(12):32-33(2015).

○小林孝夫, 2016 作物展望(花き), ニューカントリー, 63(1):44-45(2016).

(5) 新聞記事・広報誌、放送等

○小林孝夫, 2016 道農業の検証(花), 日本農業新聞, (2016.1).

○佐々木純, たまねぎのべと病に対する防除対策, 農業共済新聞, 5月4週号 (2015.5.27)

(6) 出願公表

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・田中静幸・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治, 赤肉メロン「おくり姫」, 登録出願公表 30290号 (2015.09.29)

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治, 赤肉メロン「DHM-R5」登録出願公表 30291号 (2015.09.29)

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・田中静幸・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治, 赤肉メロン「DHM-R6」登録出願公表 30292号 (2015.09.29)

(7) 品種登録

該当なし

(8) 受賞

該当なし

2. 印刷刊行物

該当なし

3. 普及事項

(1) 普及奨励事項

該当なし

(2) 普及推進事項

○いちご新品種候補「空知35号」

(3) 指導参考事項

- 赤肉メロン「北かれん」の高品質栽培技術
- アスパラガスに対する除草剤「AH-01 液剤」の実用化
- 露地春まきねぎに対する被覆尿素肥料「セラコートR」の施用効果
- たまねぎの灰色腐敗病に対する多発回避のための効率的防除対策
- アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策
- ほうれんそうのべと病に対するピカルブトラゾクス水和剤F（未登録）の効果
- きゅうりのべと病に対するエタボキサム水和剤Fの効果
- きゅうりのうどんこ病に対するピリオフェノン水和剤Fの効果
- かぼちゃの黒斑病に対するTPN水和剤Fの効果
- メロンのべと病に対するピカルブトラゾクス水和剤F（未登録）の効果
- メロンのうどんこ病に対するバチスル アミロリクエファシエンス水和剤の効果
- とうもろこしのアブラムシ類に対するスルホキサフロル水和剤DF（未登録）の効果
- とうもろこしのアブラムシ類に対するスルホキサフロル水和剤F（未登録）の効果

(4) 研究参考事項

該当なし

Ⅶ その他

1. 職員の研修

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
鳥越 昌隆	新任研究主幹級研修	道総研本部	札幌市	27. 7. 30～27. 7. 31
福川 英司	新任研究主幹級研修	道総研本部	札幌市	27. 7. 30～27. 7. 31
清水 政宏	新任主査級研修	空知総合振興局	岩見沢市	27. 8. 6～27. 8. 7

(2) 職場研修（集合・伝達研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修（農作業安全研修会）	27. 5. 15	16:00	総務課主査（総務）白木和美	47
職場研修（AED説明会）	28. 1. 27	11:00	日本光電工業（株）担当者	28
職場研修（消防訓練）	28. 3. 15	13:30	中央防災システム（株）担当者	23

2. 見学・参観

月日	団体名（人数）	月日	団体名（人数）
5月8日	JR西日本創造本部（諫山太輔ほか）（2）	8月20日	空知エコ普及環づくり協議会 [岩見沢市]（6）
6月11日	農事組合ぴりかファーム [今釘]（11）	8月21日	札幌市園芸クラブ [札幌市]（33）
6月25日	浦河町いちご生産振興会（菅正幸会長 ほか）（2）	8月21日	北海道果樹協会青年部 [北海道果樹協会]（27）
6月29日	石狩市フラワーマスター連絡協議会 [石狩市]（40）	8月21日	佐呂間町農協シソ部会 [JA佐呂間]（8）
7月6日	「きた☆そら」北空知管内女性グループ [釧路市]（6）	8月21日	株式会社ホープ（竹内憲一）（2）
7月8日	当麻町花き生産組合 [当麻町]（30）	8月27日	福井県農林水産部 [福井県]（2）
7月8日	鹿追町議会 [鹿追町]（13）	9月3日	大阪中央青果株式会社（中川勝弘）（1）
7月9日	北札幌支部青年部 [JAさっぽろ]（16）	9月4日	新篠津村農業塾 [新篠津村]（18）
7月10日	北竜町ひまわり大学 [北竜町]（26）	9月7日	沖縄県農林水産部 [沖縄県]（9）
7月14日	むかわ町地域担い手育成センター [JAむかわ]（13）	9月9日	日本植物調節剤研究協会北海道試験地 [長岡町]（2）
7月14日	芦別市立芦別小学校 [芦別市]（56）	9月10日	山梨県立農林高等学校 [山梨県]（31）
7月17日	剣淵町花卉生産組合 [JA北ひびき]（8）	9月11日	拓殖短大野菜花き実習生 [拓殖大]（65）
7月23日	比布町青果振興会 [JAびゅう]（15）	9月11日	豊浦町農業委員会 [豊浦町]（13）
7月24日	三好アグリテック株式会社 （竹岡昌彦）（1）	9月30日	北海道種苗協同組合 [札幌市]（20）
7月28日	有限会社中央園芸 [釧路市]（8）	10月2日	広島県立西条農業高等学校 [広島県]（42）
8月5日	JAびばい女性部園芸・加工部会 [JAびばい]（24）	10月15日	北海道農業協同組合学校 [江別市]（60）
		10月21日	ホクレン北広島事業所（杉浦輝陽）（1）
		10月23日	壮瞥町地熱利用検討会 [壮瞥町]（25）
		3月15日	空知エコ普及環づくり協議会 [札幌市]（10）

月	団体数	人数
4月	0	0
5月	1	2
6月	3	53
7月	11	192
8月	7	102
9月	8	159
10月	4	128
11月	0	0
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	1	10

合計	35団体	646人

3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

(1) 普及指導員研修

1) 新任者集合研修 6/29～7/7

研修項目	対象者	担当
普及事業と普及活動の基礎、道内主要野菜・花栽培に関する基礎的技術の習得	空知(南東部)小坂周平 空知(中空知)栗林昌輝 石狩(北部)前田由布子 後志(本所)坂内泰輔 日高(西部)大塚美幸 上川(本所)川村倫希 上川(本所)竹内直洋 上川(土別)長澤秀高 宗谷(北部)杉村翔子 網走(本所)松浦大地 網走(本所)岡田 悠 十勝(西部)鈴木雄大 釧路(中西部)川村芳輝 根室(本所)久保田 良 根室(本所)松浦菜摘 根室(北根室)福岡絵里	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

2) 専門技術研修（野菜）6/23～6/26

研修項目	対象者	担当
野菜の花芽検鏡・接ぎ木技術・品質分析技術技術の習得	檜山(北部)千田佳恵 後志(本所)守屋吉聡 胆振(東胆振)小川洋平 上川(大雪)中野寛之 網走(本所)永山 毅	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

3) 高度専門技術研修（野菜）

6/1～6/5, 7/27～7/31, 8/24～8/28

研修項目	対象者	担当
トマト・メロン・いちご・かぼちゃ・葉菜類栽培技術の習得	空知(本所)小形智子 後志(北後志)南辻牧子 胆振(東胆振)宮原大助 網走(遠軽)花岡伸光	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

4) 専門技術研修（花き）

6/15～6/19, 7/27～7/31, 8/24～8/28

研修項目	対象者	担当
花き開花調節技術、品質保持技術等の習得	空知(北空知)上西てつ子 石狩(北部)大平 誠 渡島(本所)深尾伸一	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

5) 専門技術研修（農業労働（中堅））10/14～10/16

研修項目	対象者	担当
ICT（情報通信技術）を活用した農作業省力化技術及び安全対策の習得	空知(本所)小形智子 石狩(本所)高松砂織 後志(本所)須佐 直 胆振(東胆振)石原拓朗 日高(本所)宮部維久子 渡島(本所)酒井紀彰 檜山(本所)佐藤聡美 上川(本所)有田匡志 留萌(本所)街道 舞 宗谷(北部)森 隆光 網走(遠軽)小山拓也 十勝(本所)熊谷健一 釧路(本所)狩野康弘 根室(本所)大畑和子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G

5) 高度専門技術研修（クリーン農業）7/21～7/24

研修項目	対象者	担当
環境保全型技術、病害虫防除総合対策等に関する具体的知識・技術の習得	胆振(本所)山田孝彦 日高(本所)土肥精司 宗谷(本所)脇坂裕二 網走(本所)直井美幸	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

4. 委員会活動

(1)各専門委員会の名簿

(平成28年3月31日現在)

ア. 業務委員会

福川英司(委員長)、岩橋広樹(総務課)、大久保進一(花き野菜G)、野田智昭、白井佳代(生産環境G)、柳田大介、及川 忠、南 貴夫(技術研修G)

イ. 環境整備委員会

鳥越昌隆(委員長)、岩橋広樹(総務課)、後藤英次(生産環境G)、鈴木亮子、玉川 忠(技術研修G)

ウ. 情報・図書委員会

角野晶大(委員長)、新津康子、藤田賢司、土田操(総務課)、田縁勝洋(花き野菜G)、後藤英次(生産環境G)、高橋英樹(技術研修G)、佐々木主査(システム委員)

エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

(2) 各専門委員会の活動

1)業務委員会

ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月2日～11月26日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月24日～3月31日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月16日

イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事(排水路、暗渠)
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

ウ. 主催行事

- (ア) 植栽&ご苦労さん会 6月25日
- (イ) 収穫祭 10月23日

2)環境整備委員会

- (ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理
- (イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他(6/23)、チューリップ(10/19)の定植
- (ウ) 旧十勝道路沿い：清掃、ハマナス、アジサイ

イ等の除草、冬囲い

(エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

3)情報・図書委員会

ア. 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(4月20日)：活動・予算計画
- ・第2回情報図書委員会(3月17日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

イ. 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサルの開催(5月20日)
- ・研修生の参加呼びかけ
- ・ハウス群の試験内容の掲載徹底

ウ. 場の広報に関する事

- ・平成26年度年報の作成と印刷物の配布
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)

エ. 法人情報システム(含むホームページ)の管理・運営に関する事

- ・HP統一画面への変更作業
- ・HPの更新(研修情報他広報関連9回、事務関連5回の合計14回更新)

- ・課題対応型支援、研究会の項目の追加
- ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)

オ. 図書の整備(購入)および管理に関する事。

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・成績書および定刊等の製本
- ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施

5. 公開デー2015の実施

8月4日(火)に実施。

(来場者数：92名)

(ア) 屋内会場の催し物

- フラワーデザインセミナー(技術研修G)
- 気孔を見る実験(花き野菜G)
- 病害虫診断コーナー(生産環境G)
- 土壌診断コーナー(生産環境G)
- 園芸相談コーナー(技術普及室)
- パネル展示コーナー
- 塗り絵コーナー

- マチローパーティー
- 木工細工コーナー
- リクガメふれあいコーナー
- 展示温室：ピーマン（こどもピーマン、ピー太郎）、唐辛子（甘とう美人）、ピンカ、サルビア、カンナ、ステビア、コリウス、カレックス、つるむらさき、白ナタマメ、落花生、黒落花生、アマランサス、アングロニア、トレニア、ツノナス、オクラ

(イ) 屋外会場の催し物

- メロン品種の試食(花き野菜G)
- 苗当てクイズ(花き野菜G)
- 農業機械展示(技術研修G)
- 飲食及び農産加工品直売コーナー
滝川食と農を考える女性の会
手作りの家とまと
- YES!clean展示
- バスによる圃場見学
- 研修生による生産物の試食、販売

6. 講師等の派遣

- 大久保進一. トマトに関する最近の試験研究成果について. JAたきかわミニトマト生産組合栽培講習会(2016. 2)
- 木村文彦. 北海道におけるいちごの現状と展望及びいちごの育種事情. 豊浦町いちごセミナー(2016. 2. 16)
- 鈴木亮子・大宮知. 収穫後の枝整理について. 北育ち元気村花き生産組合花木類部会現地講習会(2015. 6. 3)
- 鈴木亮子. JA南るもい立毛コンテストおよび現地講習会(2015. 7. 22)
- 鈴木亮子. 平成27年度北育ち元気村花き生産組合反省会花木部会(2015. 11. 24)
- 鈴木亮子. 平成27年度北海道花き生産連合会カーネーション部会講習会(2016. 2. 12)
- 柳田大介. 特別講義(二)『医食農連携のススメ』学部2年生対象 テーマ「玉ねぎの育種を通じた機能性開発」. 東京農業大学生物産業学部(2015. 11. 12)
- 柳田大介. タマネギ育種の具体的な手法について. JAさっぽろ青年部研修会(2015. 12. 9)

○柳田大介. 直播タマネギの栽培管理について. 全国肥料商連合会(2016. 2. 19)

○池田信. 農畑作物関連栽培技術等研修. 北海道農協共済組合連合会(2016. 3. 2)

○小林孝夫. 北海道ばら研究会セミナー(2016. 3. 8)

7. 各種委員

○生方雅男. 地熱・温泉熱アドバイザー. 北海道経済部

○生方雅男. 北海道切花品評会審査員. 札幌市.(2015. 7. 16)

○生方雅男. 北海道鉢花品評会審査員. 札幌市.(2015. 11. 26)

○生方雅男. 北海道養液栽培(植物工場)研究会運営委員

○生方雅男. 平成27年度農業電化コンクール表彰候補選考委員会委員

○生方雅男. 植物工場エネルギー利用実態調査に関する委員会委員

○福川英司. 日本植物調節剤研究協会専門調査員

○福川英司. イチゴ栽培プロジェクトチーム構成員

○鈴木亮子. 北海道フラワーガイド編集委員

○柳田大介. 北海道野菜地図編集委員

Ⅷ 自己点検への対応

事 項	件数等		
	H27	H26	H25
研究ニーズ調査によるニーズ把握件数	0	0	0
各機関に直接寄せられたニーズ把握件数	11	14	0
次年度新規課題となったニーズ件数	0	4	0
「研究展開方向」に定める研究課題数	0	0	0
重点研究課題数	0	0	1
うち新規重点研究課題数	0	0	0
うち企業と連携した課題数	0	0	0
経常研究課題数	8	13	16
うち新規経常研究課題数	2	3	6
道受託研究課題数	0	3	3
うち新規道受託研究課題数	0	0	0
公募型研究への応募課題数	5	2	3
うち採択数	-	1	3
公募型研究課題数	5	3	4
うち新規公募型研究課題数	2	1	3
公募型研究の管理法人実施件数	0	0	1
一般共同研究課題数	1	2	1
うち新規一般共同研究課題数	0	2	1
受託研究課題数	6	10	8
うち新規受託研究課題数	3	7	4
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	3	3	3
研究成果発表会・企業向けセミナーへの延べ参加者数	314	322	478
研究会等の開催件数	0	0	0
研究会等への延べ参加者数	0	0	0
展示会等への出展件数	1	2	2
普及組織との連絡会議等開催件数	19	29	11
企業等へ訪問し広報活動した件数	14	4	7
出願中特許件数	0	0	0
うち特許等新規出願件数	0	0	0
特許権等保有件数	0	0	0
うち特許等新規登録件数	0	0	0
うち特許権等放棄・権利消滅件数	0	0	0
出願品種数	3	0	0
うち新規出願品種数	3	0	0

事 項	件数等		
	H27	H26	H25
登録品種数	22	22	22
うち新規登録品種数	0	0	0
うち育成者権登録抹消・存続期間満了品種数	0	0	0
ノウハウ指定された技術数	0	-	-
特許等の実施許諾件数	0	-	-
登録品種等の利用許諾件数	18	15	15
課題対応型支援の実施件数	0	-	-
技術審査件数	1	0	1
研修会・講習会等の開催件数	9	11	6
研修会・講習会等の延べ参加者数	586	515	150
研修者の延べ受入人数	163	103	89
うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数	68	45	41
うち大学等の学生の受入人数	1	8	8
連携協定等の締結件数(通算)	0	0	0
道関係部との連絡会議等の開催件数	34	5	5
市町村との意見交換等の開催件数	1	3	0
道民意見把握調査の回答数	206	121	237
うち業務の改善意見数	11	0	0
うち改善意見に対する対応件数	0	0	0
関係団体等との意見交換等の開催件数	8	4	22
職員奨励事業課題数	0	1	1
うち業績型研究課題数	0	0	0
うちシーズ探索型研究課題数	0	0	0
うち技術支援型研究課題数	0	1	1
海外研修の派遣件数	1	0	0
海外研修の派遣人数	1	0	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣人数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	2	0	5
国内研修Ⅱの派遣人数	2	5	7
視察者・見学者受入件数	35	40	46
視察者・見学者の延べ受入人数	646	869	698
出前授業の実施件数	0	-	-
道民向けイベントの開催件数	3	-	-
うち公開デー等の開催件数	1	-	-
道民向けセミナーの開催件数	-	2	2

事 項	件数等		
	H27	H26	H25
道民向けイベントの延べ参加者数	228	-	-
うち公開デー等の延べ参加者数	183	-	-
道民向けセミナーの延べ参加者数	-	43	52
国際協力事業等への協力件数	7	6	4
グリーン購入の金額(千円)	997	1,715	1,773

ISSN 1346-7506

平成27年度 (2015)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

平成29年3月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)
